

森町南部の地質：
高校理科学研究会・西部支部合同巡検会の報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 和男 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025328

森町南部の地質

加藤 和 男*

8月25日(水)参加者合計20名(高校理科研究会西部支部15、県地学会会員5)

今回は、高校理科研究会西部支部(代表理事加藤美一新居高校教諭と県地学会西部支部支部長森 伸一氏)との合同で行う。

9時、袋井商業高校で受け付け、その後同校教室で本日の日程と地質全般、巡検場所のポイントについて、案内者の加藤国雄袋井商業高校教諭(同会員)から説明を受ける。

この森地区南部は、県の中央部を占める四万十帯(古第三紀)南部から第四紀の小笠層までの幅広い時代の地質の見学ができる。層序は別表のようであるが、どこも特徴のある露頭であった。特に、層理面の特徴は、教科書的で理解が深まり大きな収穫があった。残暑厳しい1日であったが、加藤会員の熱心な案内に感謝する。また、ここに巡検の名ポイントとルールを示すので是非見学されたい。

地点1、飯田：化石床＝葛城ゴルフ場西側素堀のトンネル

2、円田：リップルマーク(写真1)＝道端の小さな露頭で下りながら右手を見る。小さいが見事である。

3、大久保：ハンモック＝斜交層理のサイクルの大きなもの。

4、敷地：インターフィンガー＝掛川層群の野部層と大日層のインターフィンガー。

5、小国神社東側のガレ場：光明断層の露頭＝揉みくちゃになっており断層破碎部と考えられる。

6、陣屋峠の道路工事現場：砂泥互層＝摺曲したタービダイト。

7、橘：ソールマーク(写真2)＝道端の転石のような露頭。教科書的なもので是非見ておきたい。

8、森中学校裏：天宮砂岩＝層理面がはっきりした好露頭である。

9、寺島：不整合＝四万十帯の三倉層群と倉真層群(中新世)孕石礫岩層との不整合。

10、本郷東：化石＝有孔虫、以前は大型のツキヒガイを産した露頭。

11、細谷：海底滑り面＝土方泥層に見られる滑り面。教育センターの建設現場で近いうちに見れなくなるであろう。

地 質 時 代		層 序	模 式 地	
第 四 紀	完新世	完新統		
	更新世	小笠層群	小笠山	
第 三 紀	新第三紀	掛川層群	曾我層 1.6Ma	掛川市曾我新田付近
			油山層	袋井市油山寺
			宇刈層	袋井市宇刈
			大日層 1.9Ma	袋井市大日
	野部層	豊岡村下野部		
	中新世	倉真層群	戸綿泥岩層 森町南戸綿 天宮砂岩層 森町天宮 孕石礫岩層 磐田郡豊岡村獅子ヶ鼻公園	
古第三紀	漸新世	三倉層群	四万十帯	
	始新世			
	晚新世			
白 亜 紀		犬居層群		

*県立池新田高等学校

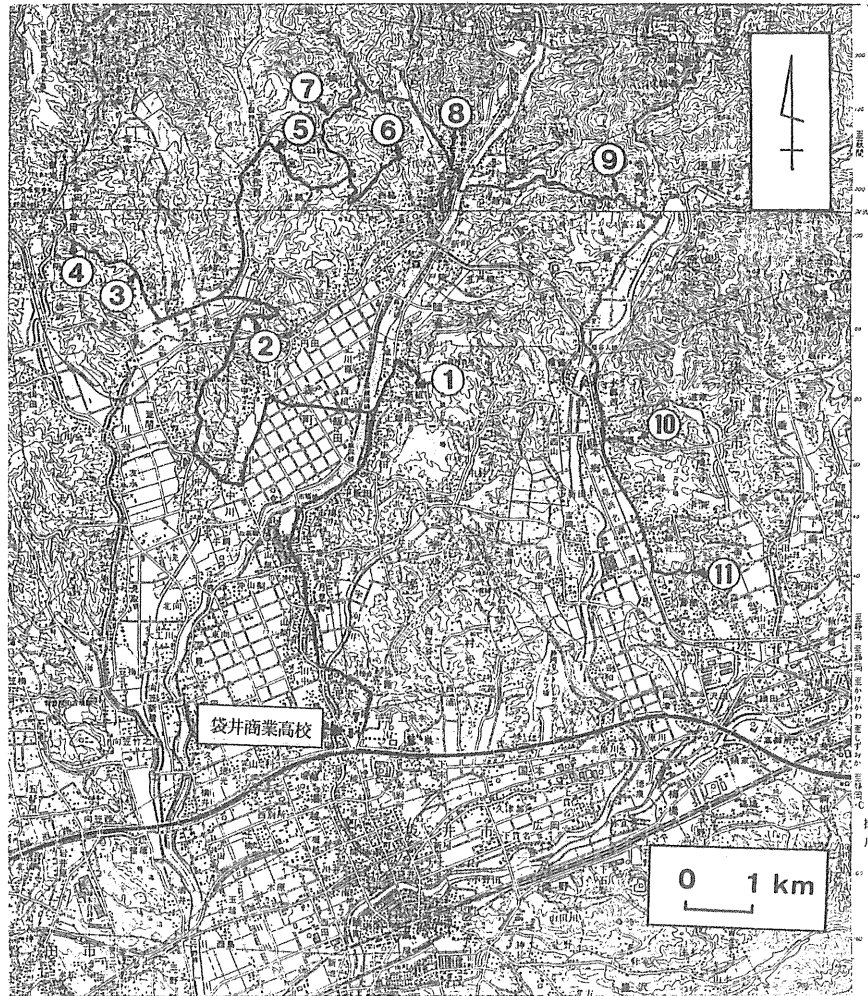


図1 巡検コース案内図（1/5万地形図「天竜」・「磐田」の一部を使用）
 図中の番号と本文の番号は同じ地点を示す。



▲ 写真1 掛川層群大日層のリップルマーク
 逆転した厚さ1 m以上の砂岩の底
 に残されたもの。

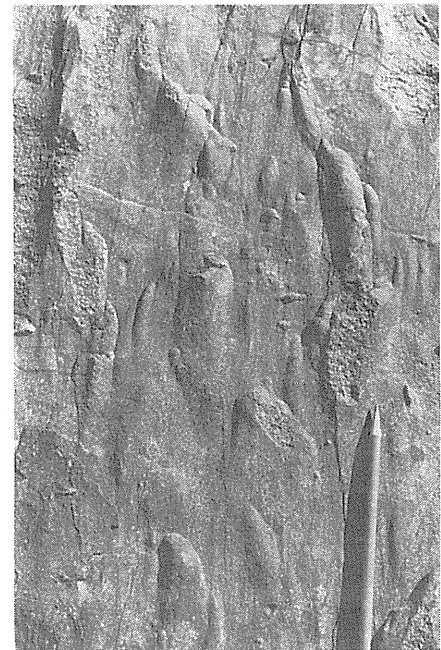


写真2 四万十帯三倉層群のソールマーク ▶
 逆転した厚さ1 m以上の砂岩の底
 に残されたもの。

※資料は、加藤国雄袋井商業高校教諭（同会員）に申し込みして下さい。